

CO₂排出実質ゼロへ

中技コンサルが3事業支援

中国経済産業局から委託を受けている「中電技術コンサルタント」(広島市)の取り組み支援で、中特グループ(周南市)、かみむら(防府市)、県相撲連盟(宇部市)がカーボン・オフセットを実施する。

カーボン・オフセットは経済活動やイベントなどで二酸化炭素排出量の削減に努力するとともに、削減困難な部分を他の省エネ事業による削減量(国内クレジットなど)で埋め合わせて排出を実質ゼロにする取り

組み。事業者や団体などが実施することで社会貢献やイメージアップにつながるメリットがある。

中技コンサルによると、リサイクル業の中特グループは地元イベント「第10回周南24時間リレーマラソン・in・YAMAGUCHI」(28、29日)の会場照明などと、大会参加者、関係者約2千人の会場移動に伴い排出される二酸化炭素相当量(13ト)を、下松商業開発がショッピングモールの照明の発光ダイオード

(LED)化によって削減したクレジット(排出権)を買い取って埋め合わせる。

県相撲連盟も下松商業開発のクレジットを活用し、県内開催の主な大会(国民体育大会県選考、県体育大会ほか)参加者らが会場まで移動するのに排出される二酸化炭素相当量(2ト)をオフセットする。

リサイクル業のかみむらは江泊工場の重機から排出される6カ月分の二酸化炭素排出量(17ト)を、山口市の湯田温泉株式会社(ホテル松政)が空調設備の効率化によって削減したクレジットで埋め合わせる。

カーボン・オフセットのクレジットは専門会社の「カーボンフリーコンサルティング」を介してやりとりし、証明書が発行される。中技コンサルは専門会社と共同で排出量を測定するなどしてカーボン・オフセットを推進している。クレジットは二酸化炭素1ト当たり1500〜2千円と

いう。

中技コンサルは「県内で削減されたクレジットを活

用して県内事業所などがオフセットすることは、山口県の地球環境保全に向けた